

1 関西広域連合について

（3）政府の地域主権戦略会議等における、片山総務相の奈良県に係る発言を、知事はどう受け止めているのか。

（知事答弁）

1 片山総務大臣の発言にはよくわからない部分もありますが、本年1月25日に開催されました地域主権戦略会議におきましては、次のように発言されているように伝え聞いております。すなわち、“各府県の区域に属する国の事務を各府県に移管したうえで、それらを持ち寄って広域連合を作るとというのが筋道で、奈良県が入っていない広域連合に奈良県の事務も含めて移管するのは、今のシステムからは出来ない。奈良県も関西広域連合に早いうちに入っただき、区域をそろえて移管することを相談してほしい。理屈上は、奈良県にも国から移管して、奈良県が関西広域連合に事務委託するというプロセスがあれば、一応可能”という内容と聞いております。

また、2月17日アクション・プラン推進委員会においては、同大臣から、“国の方の管轄地域をちょっと変えるのも一つの選択肢だし、関西広域連合と奈良県の受委託の関係をするべきという案もある。それはこれから克服すべき課題として検討、相談してというのが本当。ですから致命的な問題ではない。”との発言が伝わっております。同大臣の発言の意味がはっきりしないところもありますが、広域連合と国の権限の移譲という点についての発言でございますが、それについては次のように考えております。

2 まず、奈良県の参加しない広域連合が、奈良圏域の行政を行うということは、自らの地域のことはその地域にある地方行政組織、議会も知事もいる行政組織が行うことが当然でして、奈良県の参加しない広域連合が奈良圏域を行政を行うことは、地方自治の原則に反するという風に思います。これは、片山大臣の発言にも盛られているという風に解釈しております。

したがって、国から関西広域連合に奈良県の圏域の事務が移管されることはあり得ないと考えております。また、本県の圏域の事務を関西広域連合に行ってもらうために、国の事務を奈良県に移管して、その全てを、さらに関西広域連合に移管するということは、行政の責任のあり方からは考えられません。例えば、ハローワークの機能は県に移管する、奈良県ハローワークの労働局の事務が奈良県に移管されて、それを関西広域連合に全て移管すべきというのは本末転倒だと思います。

さらに、国の出先機関の管轄区域と関西広域連合の区域を合わせるために、奈良県も広域連合に入るべきだと言われるのは、本末転倒の議論と言わざるを得ません。

国の出先機関の管轄区域につきましては、近畿地方農政局は滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の6府県ですが、近畿経済産業局は6府県に加えて福井県も管轄区域になっております。また、近畿地方整備局は福井県及び三重県内の一部河川も管轄区域になっておりまして、両県は関西広域連合への参加を表明されておられません。現状においてもズレがあるのが実情です。

3 国の出先機関については、単に地方に移譲すればいいということではなく、まず、国の出先機関が不要であれば、いらぬものを国で整理、廃止してもらわないといけないと思います。

単に“まるごと”移管するということであれば、余計な人や業務まで押し付けられ、国の人員の整理を地方が引き受けるということになると思います。

国の権限を、何でも欲しいということではなく、奈良を良くするために必要な権限と責任を、財源と合わせて、求めていきたいと考えているところです。

(山下議員再質問)

まず、広域連合の問題です。逆からお尋ねします。いま、広域連合の中で検討されてきた、事務内容、目標等を精査しながらですね、果たして、府県で行うべき事業内容と、いわゆる重ねて二重行政になっているようなところあるんでしょうか。広域連合の中でもそのことはお互いに精査し、そうならないように配慮しているところおっしゃっています。わたし、このままではね、知事、知事のお思いの広域連合に対する不信感の根拠というのは、いくつかの観点はわかるんです。しかしね、これは必要があって連携するというのと、あるいは、将来、道州制も含めて、地域に行政の主たる権限が移譲され、そうしていく過程の一つの試みとしてされている広域連合ならばですね、もう少し観点を広げていった方がいいのではないかと。

例えば、知事、観光の問題でも、JR西日本がやった三都物語のキャンペーンから奈良がはずれたという風に聞いているんですね、これはどうしたことなんでしょうか。あるいは、中国や東アジアの問題についてしばしば重視なされ、東アジア地方政府会合など組織されておりますけれども、その奈良の呼びかけに実は近畿の府県、どこも答えてないですね。私は、東アジアの国々との接点をさぐる時に、寂しいのは、近畿の府県がどこも参加しようとしていないということは、この辺の軋轢がどこにあるのかなと心配しているのです。実に1300年祭のお客さんの30%は近畿圏から来てくださった人です。それはいわゆる平城宮跡のお客さんもそうでありまして、その他の奈良県下各地のお客さんにおいても、30%は近畿圏の人々なんです。この人々との関係について、やはり親密に連携していく、それぞれ訪問し合う、そういう関係を含めて構築していくということは、奈良県にとっても損しないことではないのかなという風に思うわけです。その辺でこのままならば、なんか近畿から置いてけぼりになるんじゃないかなと。例えば、中国の、確かにおっしゃることはわかるんです、初めて来た中国からのお客さんは、要するに、大阪の電気屋さんで買い物をして、そして京都に寄って、富士山をみる、そして東京から帰って行くと、こういうパターンが圧倒的に多いとも聞いているわけです。ゴールデンルート。そこに、どうして奈良が組み込み、そしてその一部でも、奈良に来ていただく、そんな努力が出来ないのか、非常に悔しくてならないわけです。

ですから、知事、どうも、近畿のはみごになる、そんな寂しさを感じてるのは私だけではないと思います。知事は強がって、いやいや、うちが呼びかけたらどこでも対応してくれると、こうおっしゃってますけれども、これから、事態は、広域連合の事務がどんどん進んでいけば、そうはならないでしょう。例えば、ドクターヘリで新しい体制を作るとして、そしたら例えば、奈良県でドクターヘリを持って運用しておった、奈良県の住民の方から要望があって、隣からもやっきとなって、例えば大阪、京都からやいやいの催促があって回してくれというた時に、やはり、奈良県の県民優先するでしょうがな。広域連合入ってるとこは優先されるでしょうがな。そんな時に置いてきぼりになるのではないかと

う、そんな不利益も含めて、やはり県民はさとく察知するわけです。

そういう意味で、どうも、入ってどんな損するのか、3千万円そんなに惜しいのか。3千万円そんなに惜しかったら、何も見通しのない、東アジア地方政府会合などお止めになった方がいいですよ。あれ、県民の誰が知っていますか。あれは市民同士の交流はどこでどう組織されようとしてるんですか。そこまで行かないでしように。それなのに、2億円以上の大金を使うわけでありますね。本来、そういうことは国がやるべき事業なんです。あれは国から、奈良県さん、呼びかけてやってくれないか、と国から委託されてやるような事業だと、私は思うんです。かつてシルクロード博の後にですね、様々な取組しましたがけれども、結局失敗になって、永続的な奈良の観光、あるいは観光平和県の位置づけもいつのまにか消えてしまいました。

そういうことも含めまして、知事の方でこだわりを解いていく時期がそろそろ来ているのではないかと、入って何を損するのか、私は損することはないと思っています。県議会内に特別委員会の設置等も含めて検討しようと、県議会内部の空気もございますし、そこに期待して、私は広域連合の問題にこだわって参りたいと思います。質問を終わります。

(知事再答弁)

いくつかの切り口があろうかと思いますが、最初は道州制に行くのに入らないとだめではないかという、道州制との関係のご質問がございました。

私は橋下知事が出てこられる前に井戸知事も含めて近畿ブロック知事会で、この問題を議論しておりました。井戸知事は、道州制はだめだけれども関西広域連合はいいんだということをおられました。橋下知事は道州制を進めるための一歩だと。これは広域連合の中でまだ收拾がついておりません。どっちですか、どっちがいいんですかということは、議論しても分かれたままです。外にあまり言わないでおこうというのが、近畿ブロック知事会の雰囲気でございます。

道州制と関西広域連合の違いは、道州制が出来ますと府県がなくなります。なくなるが故に入るか入らないか、国が中心となってはっきり決めなければいけません。広域連合は府県はなくなります。なくならないことを前提として持ち寄ってできる広域的な事務をしようということだけです。橋下さんは道州制の一歩だと言っておられましたが、広域連合が道州制の一歩であれば、県議会も当然なくなります。そのことが故に、滋賀県等では反対意見もあったかと聞きますが、その反対意見を押さえるために、広域連合は道州制の一歩とは違うということ、わざわざこれが本音か嘘ん気わからないように確認したという、今、ステージです。どっちなのかで随分違う、今、ステージです。道州制に行くのか、今、議員は道州制に行く世の中なのに入らないのはどうか、という、聞こえ方によってはそのようにも聞こえたんですが、道州制については、また更に大きな議論があろうかと思えます。道州制については、議会も県もなくなってもいいということを示して、その一歩だというべき課題だという風に思いますが故に、この行政組織の意味については真剣に考えなければいけないという風に、また議論を提示させていただきたいと思えます。単なる費用だけの話じゃないということでございます。

行政組織というのは、できると随分長く続いてしまいます。いまあるムダだと言われていた地方局などは、昔、革新知事と言われるような知事が、京都府、埼玉県、東京都などにありまして、道路はいらぬと言う人があれば、1メートルも作らない、橋も一つもかけない、という風に東京都が言い、埼玉県が言ったために、関東の広域道路は遅れてまいりました。そのために県をパスして、国が直轄的にやるという制度を充実させ、組織を作ってきた経緯があります。そのような経験を目の前で見ておりますが故に、国と地方が規

則を合わせて国をどう作るかという意見が一致しないまま、進むことは大変不幸なことだと、私は身にしみて思っているところです。

関西におきましては、知事同士の意見が一致しない中で、どのような組織を作るのか、ということは大きな危惧です。孤立するのではないかとおっしゃいましたが、知事会で、他の地域に友達がたくさんいます。荒井さん頑張れという知事がたくさんおられます。このような議論が行われている地域はほかにあまりありません。が故に、いろんな議論には耳を傾けていきたいと思いますが、広く情報を収集してその本質的な意味を議論していただきたく思います。道州制か広域連合か、その関係は、というのは一つの切り口です。

もう一つは観光について、広域連合の観光、独自の観光、ということをおっしゃいました。予算的に、国の予算あるいは広域連合の予算、広域連合の予算は持ち寄りの予算ですから、どのように重点化するかということになりますが、観光の持ち寄りで成功した例は、私は観光の行政を長くやっておりました関係で、成功した例はありません。関西という目的地はありません。関西というのが、どこにどういくか、2日で関西を旅する、関西というエリアは旅します、目的地はないわけです。関西広域連合の観光ポスターを作る時に必ず、金閣寺にするのか、大阪城にするのか、姫路城になるのか、中華街なのか、必ずもめます。そのような中で一つの焦点にあてるのは、広域的な組織では難しいのが事実です。岩手県にしましても、平泉金色堂か三陸海岸かでもめて、お祭りのポスターにずっとしてきた経緯などがあります。これは、広域的に、県という広い地域のエリアでも観光のプロモーションはなかなか問題があることを、直に相談を受けた立場におりましたので、関西ではなかなか問題だなど思っております。平城遷都1300年は近畿の味と違う味を奈良は出したいと、いうことで戦略を立てました。来られる方の3割ないしは近畿である、ということですが、宿泊される5割以上は関東の方です。関西の方は泊まらないで帰られるという日帰り客です。どちらをターゲットにすべきかと考えた時に、関東をターゲットにして泊まってもらおうと、関東の人に合う味を出そうと。いうことで関東のプロモーションを中心とした訳です。関東のお客さんが来ると、近畿のお客さんも奈良のお客さんも、どうして奈良はそんなに関東のお客さんが多いのかとわき上がるというのが観光地の性でした。そのようなことがこれからもおこると思いますが、どういう味を出すか、という、奈良には近畿の他の県にない味があります。奈良の魅力を、他の県にないということ独自のを意識しないと観光地は売れません。同じ味を出せば、宿の多い料理の美味しいところが勝つに決まってるじゃありませんか。奈良の味はこういう味だという自覚こそが、奈良で大事なことだと思います。そのような自覚をするためにも、関西というDestinyネーションの中に入らない方が、私はいいと思っております。

その他の事務につきまして、広域連合という行政組織という点に思いをいたしますと、国の移管にしろ、いろんな業務にしろ、いろんな面が見えてくるように思っております。国の行政にもタッチしておりましたし、地方の組織にも在住いたしました。なかなかすんなりといかない組織だという風にまだまだ深く考えておりますけれども、そのような意見の方は全国の知事に数多くおられますので、寂しくはありません。またご議論を賜る機会があればありがたいと思っております。ご質問ありがとうございました。